

九州地整「土木の日2025」パネル展&体験イベント開催 地域の安全と土木の力を、立体地図と仮想体験で学ぶ



「土木の日」パネル展示（福岡第2合同庁舎ロビーにて）

九州地方整備局では、11月18日の「土木の日」に合わせ、パネル展&体験イベントを同局の入る福岡第2合同庁舎1階ロビー（福岡市の博多区）で開催。期間は11月28日（金）までで、土日祝日を除く午前9時から午後6時まで。

本展では、道路、河川、営繕、建政部など、各部の事業や防災・減災活動を紹介するパネル50点を超えるパネルのほか、VRや立体地図など最先端技術を用いた体験も充実。各事業の成果など詳しく説明、土木分野が地域社会に果たす役割の大きさを実感できる内容となっている。

今回九州初となる「九州全水系の流域立体地図」は、河川部が管轄する20水系を立体的に表現。来場者は、実際に目で見て触れることで、地域の地形や水系のつながりについて、より直感的に理解することができる。このような立体的な視点は、災害時のリスク把握や、今後の地域づくりへ活かす上でも重要となる。河川部の伊東理博建設専門官は「この地図を見ることで、例えば佐賀地域の市街地や有明海との干満差、立体的な特徴を捉えやすくなります。各流域に特有の課題を具体的に考えるきっかけにしてほしい」と話す。

加えて災害時に現場で活動する緊急災害対策派遣隊「TEC-FORCE（テックフォース）」の活動を紹介する映像も流れる。子どもから大人まで楽しめるイ



立体図を背景に伊東建設専門官



インフラカードとペーパークラフト

ンフラカードやペーパークラフトの無料配布も行っている。

また、11月17～18日には、最新のVR技術を使った津波体験コーナー（①10:00～12:00、②14:00～16:00）も実施。南海トラフ巨大地震による津波（高さ15メートル／ビル3階に相当）が宮崎市（イオン）を襲うシミュレーション動画を体験できる。映像は約2分間で、ヘッドセットを装着すると実際に画面が揺れ、水流が迫る場面など、リアルな災害の脅威を知ることができる。加えて、被害に遭わないようにするには、どのような行動が必要か、津波発生後の避難ルートも案内されており、災害への備えを改めて考える機会となっている。



一瞬で水が襲ってくる様子をVRで体感